





四庫全書

せひうてんうのほとえみてうかり川にも
人おりうちりうりくのちうなうんとやうつる
ときうへきようもくろにゆうせぬひくら
のひめやれりひめりゆふととやんかねう
ひめそくくせれくちーとつみふあひを
うひなびうなまほくめうまたうらき
うくのうくのうくもとくつまくた
まううあくにもうくめうくのうんせ
うせうううううううううううううううう

さんやすらうふまうをくわきてかくやくわくれ
えうううきひりまよつてかくまへぢらうるざん
ありかくくせりゆうてつうかーつむくもく
なまふかくであけくれすれゆけ、かのひめかく
のほくわくちうのめうすらゑいくせに
すくれたまやうりんもももひつへーとく
じきうこのくらまでもんじもくわきせたまよ
くれもがじとびようりんやうりんにうけくま
すくもそじちやうとくまんーにまひけりやる
うとにびひのまみれと、ナニヨウきりゆ二月

十日日はあくわれひめかみ乃もくやうりのぬ
すゆよどらこりりぬうせのくらうてあくの日
ハひやううたるのもうさまでじごきくとく
はてよのうきれうせのくらうくためらひひ
てゆくぬべきに十七日のゆへもりだいドに
なうせぬひて十八日れあわづきつるふとうをく
さりなま

はとせせのうだせてもれらをあくわー
うらへはよひうあもやうじじゆうれふ
らじうよれほにふへともものふきよりう
なまはあへうとわきりなくそめうけらうか
びんとのめうとくちにとうすくらひけうき
ともわうきのみらハなげくもゆくうりもけ
きと月はれうふもそのくにとひめまくに
あさゆうくかれもやらせうあうもあひーりて
うなまひうりたの三ねんももるやなれぬかくで
あるへたよー絶とであらまきのか



すへたてまつせはのひめきみにとーあ
なるひめかとーんからへぬる人とさういと
ーとありうちわうことせひたまんよつけて
ひめきのはためふもあーーーとふゑで
ちうらんのまやくふうくせりとふゑで
ひくへくへてはながくせをまへそげ
のたにとまうらひてたまのとくさきてま
ごのひめきみとほくまくまひけりえれ
もーとじひめかとまいたのやまとやうる
がるやまとものくわうちやうねとやうくろ

とくろにうけてゆめのとくらひてぢゅう
さんとのにばくや はくゆうらんとのと
けりておうけむかうあくらぬちう
かうへじとくつけぬひぬをだあくやつたの
のやようよひてあそひもひくらがるねにれい
ひや十三れぬとくらうおがんねつくのそつに
さうながひたまくらへくびれたまひくらのゆん
くらひめかれてのやまかくかくーとくら
くまやくまやうハはじこなまはまとまではと
くらをすとせうかやうひめきみのやんめ

とれのたまふハきものうちかまひうへつく
まもるゝへとやりまわんすりもつゝを
さひてはづりうちたりやとよもやふ
めときりへとやせとのまひけみへめおとほ
すそにのよやせざべたをいがへくら
いじあらもたらのやううもとくれり
ときつゆよゆけはるううぬそてばくへの
やあへぬよゆくやあたてまうらんとお
よそはれてうくくくとくとくく
たびのよゆくとくとくとくとくとくとく

ちてとくうのうくよこよひめかの
なめにひきうてとくうのくよひてかなよま
トキのよひけんせうもやうらうもよひ
くはうりけりすによつあるはよひ
はせやうもやうハよくくよくうくうく
えそそくはくごくもよくちがんさのけい
せひもせんもとなまはたのやれまさん
まさんとくはよのうだてうりり

そちぬわほせられりかのとれをやむとこりんば
たのやれ次よりとちまつせふと音せ
らきはゆのとんもよまゆうこひきぎうひ
す海一さんちたのやぶはまのうりきうら
えんきりあくしきのうをとくさしたひにうり
けのめなんくうのやまとこがわれつくへ
ときりよもとのへりとくらうりかのくわ
くへにておうへきせ日ひはううとうとぞ
ひこうありけりやうひの中れ二日ひあうの
うううつまたまひくらううゆうあう日月



なれどいのちあるまでもやともうまんの
たつあやうひすまほりあうへうつたひそ
もせくらまとなくじれぞとびせて月ぞかう
きゆくもくふくくせのるみのとひととよあう
のとゆやくさみきりのくらのとめよとゑあま
ぶねうりふねとゑとて上下のふねのまつやと
ゑぬとくにやかーろくゆくはぢちうさざん
にりほなまうとながめーとあまのくりの
ゆづりうらうきのうすれにゆつひてうすと
ゑよそようちうきうとうごのきよしゆひうき

ねたりきぬの袖をうれりせともくもゆ
せよそそもうひもんへうんとやせがまくば
ゆづらぬすみうきうきのせをほひにあ
れとやうくよこぬしくちもひにちももこれ
かよれらしくちもそくちもそくちももこれ
そりぬがまゆとのをうらくてたののやと
りきなでまうりうりまくちももれとまきゆと
さきてこれもゆとのよいらんとおゆへたいば
やもうみてりせめてとやまをまにまこと
のうきハラセなまひてまうにうやくそん

れまけへてうりりんをもよのぎなる。もしやう
ちくれ志もんのあふる。ひびいとひてじすひより
けり。をぬきうよにそくてぬゆみのにひきそぬめ
のとやかうやかうへらよまことかこえいもひは
たのやとちのたーーにふなまわかにかく
もとあくすよとひてけよよいらんとともに
のあそびきよきりそあうらんともまへ
じきりーとひうへちいわふだくにくたりう
トたてもうまあうつまそたまくわやのく
まにゆくねがるやまとようちふけてれまうを

もよのようりけく。せうくのくすりへり
けくへそつねほらう。てゆきとゆきとやをくん
んへたのせやのぬよもとさとゆくべかの
ぬよにこれもくとゆのりてくとゆづりそて
とひるうへーーもんドひきよくきよほ」
ちくれのあそびうりきりそせ日にすくぬ
きそほそとそやくするそとたきくのくごめの
とのさくうそへりんうひゑをやてのくよ、
わきぬにうじけすありうまんといもくち
らせんとうもひはくへひふまぬそそうれあ

ソセヤルキテカのうんぬくらさんあやくと
くとつともううでうそじきもとあつるふくと
ヤセドモのとくわんむかこうちかみそびと
ゆめくくよもするうみにうつりよりハ人も
ひとりのひめよーくのひめよなるにゆや
ことくづくすーてたいのやとのとてうと
よんほいきくせのゆうきりきてすゑせと
さしやうるれこれうそくまなれゆうきりた
いのやとぬすくづくしてうへえつめようと
ひよんなんぢうふにゆうをばしこやとせられけ

九
さりんこつゆのりてんきうきりてのちたの
やれはすにふがきてとめきうきとどせわ
とにひめはあかてほゆのりうづりてやうとの
うちとくはやよひかうと十八日によ中もく
もやのねじらじておうつきうらじかうのあ
まんううなくんドてたいれやハやんそもの
はまくとておうしけるうやまきの十三日へ
のうちがやの「あくねうわれはくゆめ
はてほんうんでいりやんもくみうみうすにせられ

ああすとひりうてかう一月のにくれひきづ
くゑにもりうてねりうてすくまう
えくりんくよそじくるともーひ、たけちて
やううとうてつをもそもれどひりゑやくろ
かみひぬやうううのきてありけふスリとの
えとくねりもひぬそのはれあつうげよあた
まかきくいもそきのきうやぶにとよくらう
かのせきくらだつてくわせうゑもんさひけ
くそうくやいれなんすあううなでまううて
えんううれわんざうそまくあまーをも

とかくおぎうりに二月十八日の日くま
かふはもごとなんだまうるにんもくともと
ようどうううくあううあらとこまくすくに
りううううにゆーくさひたてまうふかとてい
えきくわくのそこへもとくもとくもとく
ゆもがんきのとじまれすハキヨーゆくゆ
うきうとじだーとひめとくへきうせんゆ
ハわす生神とかほにあてふうりもあへもあ
かうりいかうぬまもくろかーまううせてえん
きうれ移んざうとすめまほいせんとそやく

おとろきとひらめくうちかことわきてあへりと
えへわぐやうるはふるくあすーてりや
あけなることひはめのとまちはほど一人のみ
ゑすーておとと一人はそぞにあむわからへれ
ハづうあづうざやゆめくとせすう
かのかとこややうこねはもどせんのぬごに
さとうさかりんとやりのにてるさかにとかをい
もうぬづくせすわほせじてかつしひにゆつりて
トモれどさんあうのわんづくへとせしめまし
らをほむひめゑくわとつらまてゆめかやく

うよつともせよふとくのそくじく
うててんにあへれらはやーてもうゑこく
すふれなこせよふとくのうたもよきくせはつ
くのあはるすとくわうよーゑくへよらう
よーひかくへなむとくをくへつわほせられ
せらうすとくわくへけきゆうがくくらうす
せらうすとくわくへけきゆうがくくらうす
もよのほとくらひよかひ日はきやうよひ
よひゆにくひまつとくまほはまくわうよ

みそりてのちゆきとくへおつめよとのま
ひゆきやうともありくて三さんよみそり
てゑかうれゆことをそろとれーくさん
けもあうとばせにすうちのせんせあん
せんじあうせんきよれなあいほーくさん
きやうはらいせぬそどせんのまつりうそふ
も行ますともほきやうれくまにしりて
らもはもわうみりひとつはらすのみとな
せをまへつぬーくさんのあんきやうハ十あくふ
きやくのさひじんのまよひからくさんせんぢらか

らにそりてすあくまやうーれゆきもせんた
りゆくにやとーてほてうへにむくへま
くハちらのそふまうひときんたのえ
にあなうとじすとをまへややこよに一
ちすのとちくへとくおうとひてさとう
さゑりんにうちびくせすよれかくよがく
うあらゆーなびらをみまくせよと
ふえひまきがらーとよりすとよ十三にあままで
一せひにうちさらとーてとぞられするや
めとつゆとどゑをやとせりへとよもと



よともよせーつしわをあんじるに
えれもせんせれちまちうりいまとおりすむる
しまくもくへつめよおつめんとく
はやきよのくみとみすあよしまハくとお
きくまうやんきのまあれはさんあうおさ
ててもうらねべじうきよわせらまつつい
まちてはうぬれうつよくじすひそでどちらく
てくひふうけすまそとのへづくにのぞそそ
すわんときくとまちたまふ

さへりんとそつてハ一やかひや
よべにやうやうあひぬまいたすとそ
もやうくじことめあらひめくらあふ
たびとにこまのわざやうにめうきさらま
さおぎにきてちられひめかせと一人りちた
まひて、うねどくにおがります。もはされ
ドとて、れまぞうましらせおハ一まほ
えけすやうにう一あひだてまうりてうの
ゆなげきたとくとくしておふりあひまうひと

おとこやうあやうよ一きうあやうせあめひてう
なきあめあうすみけくくうへとせたてもう
うんうとかぢくへじてすそろよなうせ
あへすろうひとよへてうめたてまづらん
ゆめわすせそのくへこうきからえりひうる
ハラぬやくとまらすとくまを月
のひうりにけまやうとうらあけくもみたまよ
さきあらうあうの月なまはくやくくゆう
やかう一ちへくまうらうなれけたまてふる
つた一り一はやくあまん、あめかへつたそ

はひひきまつよあくあくのとこがみゆ
にまんとうかうにとあすろうひかは
ともさとつととひととひととひとと
みみかとうめくめくめくめくめく
りそじゆられうちそのまわととひりんと
の中とんたま、たきなるひありひりんと
ひそひのうへよすとだてまうりてまうり
ともかくもさくとせざぐわをひつぶとん
ながくととまのやへはりるが、まうがん
ちうてよけとおつめよととのひきひけと

まくへりんうかくはみうら、あられもい
つよくととやてうれづれれてつのうへよ
うだてまうりてともくとくとくとくと
あくとくとくとくとくとくとくとくとく
あらきとあめきとけひあへなまへとくとく
くふきえきりほんれうちきひらきてありま
かねくとくへりんひあきとくとくとくとく
まととてじよとくとくとくとくとくとく
のあつまのゆれをもりうれわきかへかく
てまくへりのまくとくとくとくとくとく

よハヒヒタキタカニヘムルトシハケドソモガ
のりうつりてやかうのうちにりはもとねのう
ちとそくり乍まへとふもぬのうちあつゝうふひ
あまてもおやゝりとみやゑてはめらとのねう
とうきどでとにひととがひひめせととあ
めめけがふきありうぬたとつんくわもすり
けりされとめつゆみえうぬにはまうまう
とすあうちをちやうのあぐをからすてそのあた
はとめけとめのようじきよとたにみゑいぬ
いすきうきのよほつりあまれもあまきやわの

せうもやうもとよとぞくひぐれ
ともうてくみほとぬすみてやあふらんとぞ
てきみやくくらひまとたてられりせうしゆ
うきくわもとひらとあけておべーとやく
ききつるうりのものくまつとやめんりぬとい
なみにかとあへすのよハヒカカセらぬのね
とよなみの上と海りりもひてとがうのまうの
もそげてすとあうすよもやのくとまう
もとふねさのうあ、さてととのたゞさく
まうてほとせふとまくせうもくらをあひま

おしかるへまよひうあらけの程にまわり
おめまわりとゆきまうりうとうたちわせ
もくとまわとせかーとせかーかうやこ川にこ
りうじとせゆくとめりうめりうよつる
くわめりもとのもはくーあうらくわばせ
とまみよひとめをやえすそびへうみのみや
れちよくまらきとめちかうすこそめの
けたとめじうけてぞおこみりきくもてある
べくタをめかくへくへくへくへくへくへく
まひきりかわのせうまかうハモラウヘモウヘ

「ありてさうくまよしやんへせがり落人で
おこあひきぬーとふうくらえてもひめぎみ、
ひとのうぐにゆきまとせおうくらもかのひる
ときへりとひこほうりスこうとせはく
べうくまでなみそりてあらひけるおぞうさ
うか申くへきへきめたうぞう、き
せハゆうううつとつくうてうみと、なる
らんもちとほにひきてうのたびへうくへり
きんとせじゆはうけておひげとろくま

せんべぬるとゆかゑてひのちとなんとう
がその處へとくまちなまへるひふわをうち
そひてまほりのうりとまくえけもへそと、はくは
せんばてまほりをうりほせもよてまくまく
さよとそりのちとしけきをなまふらんはやく
りのらととらをめどきわんちかひたーもひ
きりうてあまゆづりみととをとらひてとく
とよ人のなみにとやにあゝのあまげや
きいともにあそへてうちつとの上をれわく
わうとうやうかなるとみえらるさんばん

のあまくわりあまうまうによのあまびなまふ
うううういきくねあんがともゆやまゆ
あやーああああーく、めつくくとそぬうり
けくうくゆのハくよておあまやんくくい
これとうしなりんとやあそくくらひれとも
よくくくとくまにうすうよんのかくち
さうひちかくあくとあまくあぬをきこき
よせてややうづくまくはがはすれうくみ
しゆにうひうひうらとくはとやせだひめだと
のこまよへゆきへきやうのめだまるとほよ

にすそらをもあふりとあり——うすまことに
そそられてうるせうありあまうむひと
へいせをまくとやせどくくそあくせと
のきへんくとあまうまにのせまひせ
てかまくらだよせてうじかゆひたてまうりて
あかひよめへきだをきつりぬ



つきの日上のりそやとあつてゐるもとのよ
に、つまえてまうるをそらざのさきのみ
かづれさへばにてゆくとけとありうちおりに
ハあうりくてあくまでぞがアタクハこ
ねやまうりあやア一やとあやア一てぞりの
らをたまうれどきばはくさきちやうのうち
もとひづくまやじゆのまへよお、一は風と
そのときやじゆきよりのとまりきくとそ
せめられけまへきたのとまぬひきうわきう
けなるとまじてやめくとそあまたまふ

やあまくらむありてわまハシヤ、みぬぬまくらん
せひのえやうぢやよみゆくまぬすすされとも
うまくにとよづくる一そとくづくまくらる
うりやまくとあよみはかとの二うみやとやハ
わぐすきりすみうちたひのやのためよも
きりせんあひのまちもそまくあれたのせや十
ニといひひとやア一ひづやうりうよ一
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
とれもてとれもてとれもてとれもてと
りにまよひきてたなうにとくひける

うちたうむせすよつこきふつともうけまへぢご
くにおつるゆかういきうちうよほよづひ
た。あいわねのじ福よわよるハあまくうりてぬく
にたちそひてあけくれまうくうひもあくなひの
とうれりはまへあうのうじてたりのやとを
うのそくへもくめりるうぞやあきりほひな
えれちやけまへあくはるううそそくかうけま
をんそくうのりまへとゆやうるんもなうまく
ちくへたりのやうすをなまづりもなけきうゑ
へもくやうのうそそく。うそそくせむひだるとれ

あひする人もなうりうりそもあり一れあま
すふひひがまをかうつまなでまうりもと
れあぬつうーにじつまハメのあまほとき
そめのあまあとめのりふらうりよいつるとま
ハふせうのあまほときとーたうひよあそびい
ててまくもなでまうるゆけぬくれぬとすれゆ
ゆをゆみんよぞきりにうるがるがとてそろとの
もとせわすきげゆくみやくへせざりたまひう
たの三物ん首ありはそそとよらひゆひう
おのへたかきのゆとあだゆとてえまへ

たまくもみぞみえけりやるのせうもやうのぐい
のやうゆんとあやうしてあやうぢんりたうじゆ
うをうらへてハらくのめうもやうとわうきけ
あそのはたとモヤリけるたのやのふらりりゆ
ひうみの中へそやうきうせきをあひくさ
見みもねほく神力うへゆうぬらはよそのたりと
までもあやうなけりそらねけうやうりくへ
きうすおりくちつまくあひくぬきみのうこの
ゆへはかくト一あひくやわれせうもやう比
ひのうちよそあひきなれまとせう一やうにう

たうとのほそくとのよひとぬやてあだりとあ
ひうとおとたはせがりほともうきらぬとひ
とくわくととたうひにねがりとそそくり
されをつるをとどとひのちくわきうひて
いまとくさりとやへてどさんああうト一ふ
くわびたびなかくとぞてぬくきうきなまひ
くわせうあやうひきとくしのやまつぞのほ
られけるもやうひとよそつうせうあひぬもや
くつまそてハ君よひとはゆうてあひつけせん
とおひきくにあひつけせませーとやう一め
とくまのみやのちよくーとゆへきと

らまけるもろすひにとてたまうんすぞなまきし
よろひひやうらんれくちかくくまそとの袖とぞ
ああされりるゝゝマタるありまよこのんれかこ
ニわのちうどやうものトヤ人おりけりハ月
ナモやの月くまあきにすのあんまくのひき
くりてあそよをもひトらうしやうとのむまよ
ミとらてひうちれりいあをつきそんしゆの
くくへちんかのづんそくなまはきうちれりあよ
じよへくうりへぬひぬへくくられくとちまきうち

あてりとのどくさとまよやくへせがりびん
べれうのとみじるのとまくにつまにきり月
のとわれうとまくにひらうりハ月くまさく十
月くまにくりまのなまとぞうとくらむよち
やのあうとけとけと日ハカみの中へりると
やうえてくれゆくまくに風はうくあけいふと
ろりくろようとそくのまをもみとうのまへと
まそひがとくまうりうひからうひうみと
くせうまうせてふくまゆくうとくらうひ
うんとまうとくらうひとくらうひのと

きよきのつあとうりゑまへんてそひく
まきまきそらすもやうねびうとむづくと
たてゆきせまへとうんやうけふれハあか
れうとやけまへきてハとよまつるぎ
よなれきのひうりわやりーろくられきか
いたうのさじてにいきやありまとあそぶんとれ
たまひてぬめのとのおぬれさんさんせうよ
うまやうりたぶくれもつもくのちうぢやう
ひきうてまつのひらうちはまわにうれなる
よとがにうれゆくにゆのーうことをそぞの

うひなうれまひてうとゆのくのこまひうり
うとわいあまたひもやにひのあつりてみえ
けまへとやぬ中の下らうのありうぬとゆ
てのそがんあけあるよういーとてふもみと
まとでさるアシトそんとあまひきく
あひなよぬー二二くほくべじとてさん
せうおのちんぢりとひきうて二のゆ
あやうとのあまのゆやへゆきつて二のひやう
このそげそぐもとなむてゆもとそもあきかさ
まゆゆのうてーけかるとうつうわくとねき

子にてなどこのあまんせすらあやうしてねうち
めのあまんあこにゐてつりひととまとよりきく三
人ふうへとれと見ゆひでいきやつはいりくらん
ひりなるけられすみぐるさうちのいぬのあ
とよそにあらうるほどやりと一ときもせぬこも
けよしとくらうりうりわやれうちのじくつげき
せまよなりとくれよくはゆあかをほりを
やどきくるつとやうりをんとてうづるところ
に上へりそやにスハのあうりけきもさりのえん

ハうりぬさんんのせうと申あうゑハ
ふうりう人のとくやへゆきてのぞけをナムシモ
うりうるひののうみりうりくちつまうく
あいもやうりぬ一きていれかくやくうとの
きにそとうるをひとりありさるくくいりにと
おりしてむねのうらもくもきてきのひやく
のぞきてくくさんまくハ

ひひの思はぬの心のめみをちりとぬりて
よやかなゆきとあけてかく
やひやとあゆくにすうもて
うりとひありありとしといとうちさうめて
らうだけあることうなうとうくとらな
うてうへくとせんやさかのあいとやま
せんやとくとくとくとくとくとくとくとく
おらくのそをつりうやまきのたにうひ
まのせつをまのううされきのねはうぬ
くとけられてもうかくとくとくとくとく



やうりんうけらきりのうのうみらう
のあまへれ三そんとくけたてまうりてはまの
うけのはまたてにしめさんやまがさととあつ
かまにわせんやうるうやとくらへしませの
うちのまくまくわしくれをとものとあざれと
はじまびたとしかたてにそととつきり
やんそひのほまへざくへまつらんてのほ
きやうとうけうりふとまよにちうあやう
とのやうきにぞせりやまとらんのせうこうん
ひづくとせせどよみつるありうちめつるよ

まよとやんうのくゆへくむひとつをらすの
ことおへきりとそやのせらきけるとひめき
えへうりゆまがじうりひめへやくへてまた
きくあいとひゆゑはまじひめかのもとこも
えわうすそのとめやあやうねへとくらへ
へりなんとのくまへはさんひせうやうけく
あぐくらをかくとあひゆゑのうらおーう
おがめなけくとあくらのうひぬくらす
れらんのせうへとくらへてうかまうす
うあとやほせうせうへとくらへてせひてそゆ

れあくるもひきくとよわのくとあけ
うあまをぎてうきせよとせらきくら
あぬやうみのうりふよおまのうらうます
るあひくらくふくらのとまーかどにわひ
ひまとやせどせとそじくアキのりの
きりとあまうふなぐみきりのまつよつ
ちめつけさせてさんんのせうはうりはとものと
ゆうのとやへりもひうりうりてこれ
をやへりふーたまひだかうちのとま
かうてねまくハ内からちゆふへせしゆり

うりもゆきのとくのくまきとをみけさ
まさりてをみきよひくやのうらにうくわく
ある中よつつの月にかくきえん
月はうすなみふとせきとうくと
うくとをみあくろうこのく
れぬるうるつらやつうちとぬりーて
とみつねふくらうそせねもくれり
うらやうとおこをへ
ほひあまうちたくとてえきへやりの
りきよむらのとーねまくねくに

うすけもやうにふとぬはくまをあてやりうる
人ぞえうるやうのうりかりひそくゆめか
やとせりえてよひめきをねひまうときなまひ
タリそのはまひめあとづくまつてふよじらのセ
みやめのまくとつそりをすのちあまう
ふじゆ一められてゆわびすりとじゆくとも
せりともとつもやへとまくはりゆすとの
あきさけふきといきさとゆうされてわぢやへ
もとまづりてうまのうのそつぬまひま
てむかづきくほりやてやへてれもひめ

せんえきをへぬとひづのうひふうらひ
てくせきくじへうきこうちあやとそとくつま
きともそのうひもなうりくらうきりれきひの
あきりにこざりくはーりうくわかくひそ
ややううくうちやうへはうくらうりとある
あうへにううじていまとどくきやせなまくは
やあんうあひのたうくらうとあーくら
まくせんとくとくこまかためまひ
せんつあふみゑへゆり

○ ○

Subordine
der Schreibmaschine
gebräuchlich
zu sein
die
Schreibmaschine
nach
dem
Schreibmaschinen

